



コペルニク主催

See-D Contest 第1部 See-D Innovation Workshop

キックオフ・シンポジウム

2010.07.31.Sat.

@東京大学福武ラーニングシアター

See-D Contest 第1部 See-D Innovation Workshop キックオフ・シンポジウムについて

このシンポジウムは、途上国の低所得者層の生活水準向上を実現する製品づくりを目指す「See-D Contest」のキックオフイベントにあたります。

See-D では、途上国向け製品づくりのプロセスにおいて真っ先に重要なステップは、対象ユーザーの生活を観察し、彼らに本当に必要なもの・ニーズを探っていくプロセスだと考えています。ニーズはアンケートやインタビューで聞ける以上に、ユーザーの日常生活の中に隠れています。それらは、製品開発者・企画者自らが気づき・発見をしていくことでしか得られません。真のイノベーションのタネは、抽出されたマーケティング情報の中からは得られず、生データの中から自ら拾っていくしかありません。

第1部 Innovation Workshop では、「人間中心」デザイン手法を参加者に伝え、共に東ティモールの非電化地域へのフィールド調査を行うことを通じて、このニーズ発掘のプロセスをサポートしていくが、キックオフのシンポジウムでは、この「生データから気づき・発見を自ら得ていく」プロセスを一般参加者にも体験してもらえよう、「自己発見型」のシンポジウムを目指しました。



リアルタイム・ペーパー
2010.07.31.
当日発行

受付スタート!



12:30、ついに受付がスタートしました。受付には、長蛇の列ができていました。

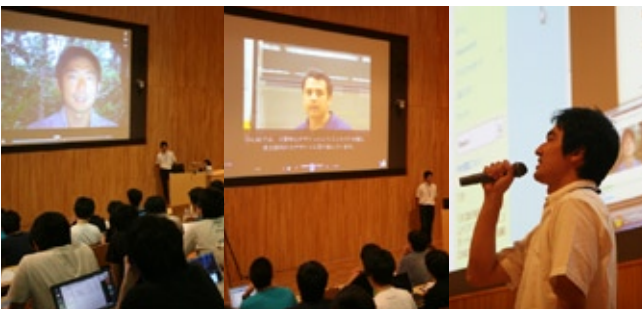
このシンポジウムに参加した理由をつぶやいてください



コンテストの実行委員長・陸さんから「このシンポジウムはみなさんが主役です。どんどん自分の意見を発信してください!」というアナウンスがありました。このシンポジウムでは、「対話」を大事にしたいので、会場ではツイッターや付箋を使って自分の気づきを発信していきます。練習として、このシンポジウムに参加した理由をつぶやきます。「FWSに興味がある」「世界の現状を知りたい」などのつぶやきがありました。

『途上国向けのものづくりのエッセンス』

ビデオメッセージ



スピーカーの遠藤さんからの紹介で、D-LabのJose氏からのビデオメッセージが上映されました。「途上国向けものづくりにおいて大事なこと、エッセンスとは」「日本の技術者が常識に縛られずにイノベーションを起こすには」という2つのテーマがありました。

ツイッターであがった意見を共有

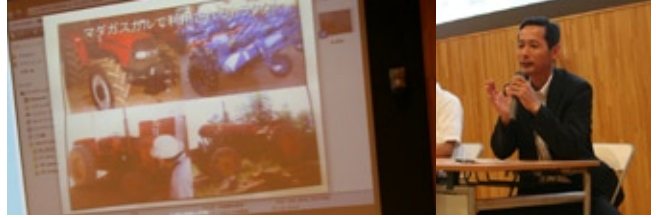


パネルセッション

『途上国で働いた日本人び体験談からタネを探す』

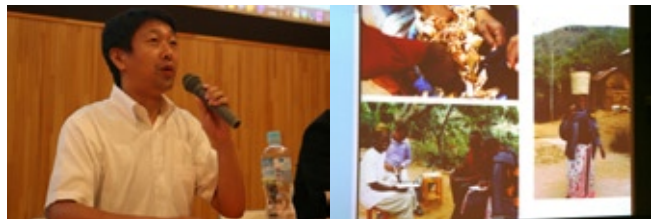
遠藤さんをファシリテーターに海外青年協力隊として、途上国での生活を体験した3人の経験者にそこで感じた違いや問題やニーズからどんなものづくりが必要とされているかを写真などを交えながら話してもらいました。

時田邦浩氏



農業機械を専門にケニアで活動されました。

井出喬洋氏



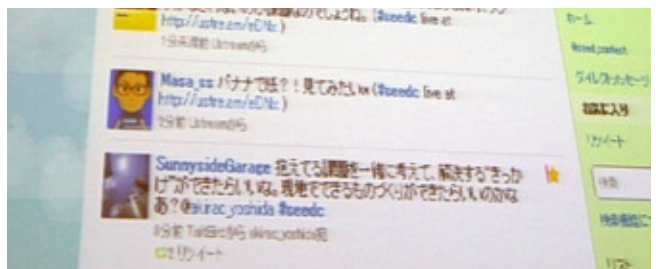
タンザニアで森林保全に携わりました。現地では、天候や環境が日本とは違うことで、学校で学んだこととは異なることばかりだったそうです。

津野有希氏



タイへと渡り、副業支援や現金収入向上のため、バナナペーパーを広める活動を行いました。小さな村の機関に配属され、現地でバナナペーパーを作っている夫婦と出会う。村の人とどういものを作るか考えたり、市場を開拓する活動を行いました。

3人のパネラーへのつぶやきによる質疑応答



3人への質問をツイッターや付箋から。「現地への強み弱みは?」「開発を行う時に、「えこひいき」と言われることを心配するか?」「材料の調達はどうするのか?」「現地の人、物理的に豊かになることを望んでいるのか?」などなど、多くの質問が寄せられました。

東ティモールについて

『途上国との直接対話を通じて、タネを探す』

ワークショップのフィールドワークにおいて、調査対象となっている東ティモールのことを詳しく知るためのセッションでした。

東ティモールとの中継



生まれも育ちも、東ティモールの3人の方とSkypeで中継を結び、東ティモールについて話してもらいました。会話はツイッター上で同時通訳されました。

- ・ 2007年に日本へ来たが、東ティモールと環境が全然違った
- ・ 東ティモールは家と家が密集している
- ・ 郊外は涼しく、人々はやさしくて、ゆっくりと時間が流れている
- ・ 生活費はあまりかからない
- ・ 電気は18時までしか使えない
- ・ 農民が多い…など

ツイッターや会場から東ティモールへの質疑応答



- ・ 調査にいったとき何が大切になるか？
→ 現地の人の話をよく聞くことです。
- ・ 日本と東ティモールでは、どちらの子供の方が幸せそうか？
→ 途上国の子供の方が幸せになりやすい、シンプルなことで喜ぶ
- ・ 子供がなりたい職業は？
→ 医者だと思います。
- ・ 食事はどうですか？
→ 一応三食は食べられているが、満足ではありません。
- ・ 電気の制約があるが、冷蔵庫はどうしているのだろうか？
→ ソーラーパネルを使って発電している地域もある。
南の地域では、魚を冷やすために冷蔵庫の所有率が高いです。

総括・振り返り

シンポジウムの振り返り



シンポジウムの感想や気づきや意見を発信し、今日の振り返りを行いました。それぞれが様々な感想を持っていました。

- ・ 東ティモールに調査に行く時、現地の歴史を見るのが大事になる

コンテストの概要説明



今日のシンポジウムを体験し、何かアクションを起こしたいと感じた方が大勢いらっしゃいました。そんな方々へ、コンテストへの参加申し込みと協力を呼びかけ（協力は技術・アドバイス協力、資金協力の両方）を行いました。

シンポジウム閉会



これを持ってシンポジウムのプログラムは全て終了です。最後は盛大な拍手で幕を閉じました。

レセプション

シンポジウムに引き続き、レセプションが行われました。黒川先生の乾杯の合図で、レセプションがスタート！





【モデレーター】 藤野、池原謙、渡辺ゆき
【同時通訳】 本多真紀
【Ustream 配信担当】 佐藤綾香（千らの）、村松正彦
【RTV 担当】 菅和真之、奥田あすか
【RTD】 専々力心太郎、小菅智晴

【コンテスト運営】 See-D実行委員会
 管理・中村優希、新井元行、若原一平、梅澤隆明、渡原謙、藤田洋、林原直人、
 杉山幸子、中澤真智、原口高樹、山内亮太、横田幸佳、渡辺ゆき



- 日時：2010年7月31日13時～17時半（レセプション：18時～20時）
- 会場：東京大学福武ラーニングシアター
- 参加者：180名
- 参加費：See-D Innovation Workshop 参加申込者 - 無料
 その他の参加者 - 社会人：2,000円 学生：1,000円
 レセプション - 無料
- 問い合わせ：info@see-d.jp
- 主催団体：NPO 法人コペルニク

